

令和2年度第2回学校関係者評価委員会議事録

日時：令和3年3月29日(月) 午前10時00分～11時00分

場所：東館大会議室

出席者：学識経験者(実習施設・講師代表)

医仁会武田総合 病院看護部長	塚本美晴 様(欠席)
京都工場保健会 総務部研修課	澤田典子 様
保護者代表 看護学科	神雲玉枝 様
看護保健学科	池田和美 様
同窓会が推薦する者	笈入弘子 様

(専)京都中央看護保健大学校

常務理事 事務局長	土井直也
副学校長	石束佳子
事務部長	出野 順
看護学科 学科長	阿形奈津子
副学科長	山本絵奈
看護保健学科 学科長	池田万喜子(欠席)
副学科長	上山みゆき
//	田淵真由美

内容：

1. 開催挨拶(常務理事 土井)

ご出席ありがとうございます。

第1回開催時に頂いた意見を反映するために1年間学校運営をしてきましたが、この1年新型コロナウイルス感染症の影響を受けている部分もあります。新入生は入学式ができず、2年次・3年次4年次生も4月・5月は登校自粛で、6月から登校としましたが320人を一度に登校させるとなると密になるため1学年ずつ登校を始めました。オンライン授業のための設備を整え、対面授業とオンライン授業を行ってきました。それまでは課題とレポートを郵送で指導し、学生も教員も大変でした。臨地実習の多くは中止か規模縮小となり、病院も大変だったと思いますが本校のために協力いただいた病院には本当に感謝しています。

学生3名が感染しましたが校内での集団感染はなく、家庭内や学校外の感染でした。京都府の感染者は300人に1人の割合で、それを考えると100人に1人の本校は感染率が高いので反省をしています。

また、入学試験も1週間延期して実施しました。学校自己評価には今回の新型コロナウイルス感染症に関する評価項目はありませんが、皆さんの忌憚のない意見をいただいて今後の学校運営に活かしたいと思います。

2. 出席者紹介

全員の紹介を行った。

3. 塚本委員長欠席のため副委員長に代理を依頼 議事録署名人は澤田様に依頼する。

以上了承を得る。

4. (専)京都中央看護保健大学校自己評価説明(石束・出野)

事前にお送りした資料には評価の基準の説明がなく、わかりにくい点があったので、学校自己評価結果概要資料に1～5段階の評価基準を載せている。

令和2年3月には、令和元年度の間評価をした。今回、令和元年度の自己評価をすべきであるが、令和2年度の業務に従事しながらの点検となった。令和2年度の課題が混在して書かれている項目もあり、少しややこしくなっている。令和2年度に課題解決に向かったものも含め、前回評価が低すぎませんかのご意見いただいたものも見直した。前回の会議で、自己評価が低い項目についての改善方法への問いかけもいただいた。良い学校なのにアピールが少ないという意見もいただいて工夫もした。令和2年度は方針・目標、現状・具体的な取り組み、課題・解決方法を再度点検して評価することを目標とし、学校自己評価委員で一項目ずつ評価を行ってきた。

大項目ごとの自己評価平均を出しているが評価項目数に偏りがあり、Ⅱ教育活動は24項目の平均で3.9、Ⅸ国際交流は1項目のみで評価2.0となっており、総合評価3.9と平均総合評価を引き下げているため、全体をみて3～4の評価がつけられるのではないかと考えている。施設設備評価2.7に関しては、施設が老朽化してきたので、現在校舎周りのレンガ塀の修理に取り掛かるところである。また、3階講堂の雨漏りも修理が必要である。Ⅵ管理運営・財政の評価は4.3で財政は安定している。図書、国際交流、組織へのコミットメントの項目が例年低い。

1年間を通して自己評価項目を見直してきて、方針・目標の正しい理解や現状の把握によって評価は変動するとわかった。自己評価を次年度に反映できるように評価の信頼性をより高めるためには、教職員が感じたり思ったりすることを反映させたいと考えている。評価が2の項目は改善を目指し関係者評価で出た意見も併せて次年度の課題にしたい。

5. 質疑応答・意見交換(以下敬称略)

(笈入) 事前に配布の評価項目に沿って質問・意見をどうぞ。

(神雲) 自分なりに理解できたので特に質問はない。

(澤田) 自己評価委員会メンバーの評価ということだが評価の指標はあるのか、メンバーは変更があるのか、軸はどこにあるか知りたい。

(石束) 2009年から96項目の項目評価を分担して実施していたので、評価の理由は明確にしながら委員会で了解を得て自己評価を実施してきたが、主観はぬぐえなかった。

また、3段階評価では分りにくく、より課題が見えるように文部科学省のものを参考にしながら4段階評価にしてみたが同様であった。京都府の指導調査時に京都府の示した評価指標で評価を受けたこともあり、概ね良い評価を受けた。しかし、どうしても納得が感じられなかったため、学校として評価項目の意味を確認する作業を2年前から行っている。

現在は、舟島なをみ氏の評価ツールを本校にあてはめ、67 項目の整理から始めて 56 項目に絞り込んで学校独自のものを作った。自己評価委員会は管理職で構成されているため、教職員の意見が反映されていない。合同ミーティングで自己評価委員会の評価資料に対する意見を募集しているが、反応が返ってきたのは 2 名からのみで、その意見も評価が低いのではという意見だった。

(澤田) 56 項目に整理された経過を理解した。

(笈入) 図書に関しては改善されたのか。

(石束) 図書の新鮮度があまりにも低いという意見をいただいた。領域に分けて予算を組み、予算をきちんと使った時期もあったが、領域に分けず大きく図書の予算として組んだ時から図書購入意識が変化したのではないかと。年間に雑誌は 40 種類ほど毎月新しいものが入ってきている。教務部は図書の 50 万円予算を使い切っていない。意識して図書を購入するシステムを作る必要がある。

(笈入) 図書に関しては課題解決には至っていない、評価項目を見直されたので評価が修正されたとわかった。雑誌が毎月到着すると新しい本がたくさん入ってきているようにも見えるが、学生が自分で学ぶためには専門書で学習してほしい。雑誌系で終わらせるのではなく司書の提案を教員に勧め購入につなげる等、司書発信の購入の方法など工夫してほしい。行方不明の本は減っていないようなので、持ち出したらアラームが鳴るような機材を取り入れる、手続きをきちんとする 等の工夫が必要。司書が常駐する必要があるのではないかと。

(石束) 書籍にまとまるまでに時間がかかり学生は新しい情報をインターネット上で検索して得ている。また新型コロナウイルス感染症のため図書室利用時間が 30 分までに制限されている等今年度は図書室利用を進められなかった。紛失図書の確認もする予定である。図書司書業務については運用できるよう事務部で見直しをしてもらったが、産休育休が一人でもあると業務がまた変更になるという事情のため司書業務につく時間の保障が難しくなっている。

(出野) 蔵書点検についても改善しかけていたが産休育休で職員減のため難しい状況である。不明図書の改善策としての機器を導入しても、アラームが鳴った時に、司書が常駐していなければ意味がないのではと現在検討中。

(神雲) 図書室には鞆を持って入るのか。

(石束) 図書室前にロッカーがあり、大きなカバンを持って入らないよう指導はしているが守られているかどうかは不明である。

(神雲) 学生で図書管理のアルバイトはできないのか。シフト制で誰か雇用できないのか。減っていく本の冊数を減らす工夫が必要ではないか。新型コロナウイルス感染症でアルバイトをしたくてもできない学生もいる。

(石束) 図書については継続して考えたい。

(池田) 要望を発言したいが良いか。1~2 年生の女子更衣室が暑すぎて汗だくになって着替え、授業前に疲れている状況なので、下級生のためにエアコンの設置を要望したい、卒業した娘から是非伝えてほしいと聞いている。

(土井) 検討する。

(澤田) 教員組織の項目平均 3.5 で、項目番号 37 の職業的満足が 2 評価。去年は評価 1 で、少しあがっていて安心したが、教員が安心して教育に当たるためには職業的満足は必要。何か新しい取り組みがあったのか。

(石束) 新しい取り組みはしていない。全教員の面接で教員の意見を聞いてきたので 1 では低すぎると思

評価を修正した。

(澤田) 安全衛生委員会も 50 名以下の職場での活動は、今はないと思うので、教員間の課題の共有の場はあるのか。

(石束) 工場保健会では職員が一同に会することはあるのか。

(澤田) 職員が一同に会する機会はないが、職員のストレスチェック等によつてのメンタル面を支える活動はしている。産業医が実施者として行っている。

6. 学校関係者評価結果の確認

以上、討議が続き、学校関係者評価結果の確認の時間がなかったが、質疑応答・意見交換で気になる項目について話し合われ、確認できた。

7. 令和 2 年度の学校関係者評価委員会の開催時期について

令和 2 年度の評価も引き続きお願いしたい。

塚本様 次年度も引き続きお願いする申し出に了承を得ている。

笈入様 次年度も引き続きお願いする。

池田様 卒業されたため後任をどなたかにお願いする予定である。

神雲様 在校生の保護者として次年度も引き続きお願いする。

澤田様 次年度も引き続きお願いする。

以上了承される。

8. その他

(土井) 教育に関して何か質問・意見はないか。

(神雲) 試験結果の返却はないのか。

(石束) 返却していた時期もあった。返却が学習意欲につながらないため、何が分からなかったか教員とともに確認できるような方法で試験は実施したい。試験後の補習授業等で学習支援をするなど工夫は必要である。60 点を超えていれば合格だとして、答案用紙をゴミ箱に捨てるような学生も出てきたため現在の方法に変更した。

(山本) 1 年次生には説明はしているが、2 年次以降は説明をしていない。

(神雲) 各年度で説明してほしい。

(石束) 年度ごとに説明する。

9. 終わりの挨拶(阿形)

たくさんの資料を読んで頂き、また率直なご意見をいただき感謝します。次の自己評価につなげていきたい。